

かたみとての御詠歌

秦 氏 君 御作
松 濤 基 作曲

やさしく、普通の速さにて

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of two flats (B-flat and E-flat). It consists of a vocal melody and a piano accompaniment. The piano part is divided into two systems, each with a treble and bass staff. The first system of the piano part is marked *mf* (mezzo-forte) and the second system is marked *mp* (mezzo-piano). The vocal line has lyrics in Japanese with circles (O) and crosses (X) indicating specific notes or rests.

Vocal Line:

○ × ○ × ○ × × ○ ×
か ー た み と ー ー て か た み と ー て

Piano Accompaniment (First System):

mf

Piano Accompaniment (Second System):

mp

Vocal Line (Second System):

○ × ○ × ○ × × ○ ×
は かな き お ー や の と ど ー め て ー し

こな 一の わ 一か れ 一さ えっ また
なむ 一む あ 一み だ 一ぶ

い か に せー ん
あ み だ ぶー つ

mf *rit.* *molto rit.*

ポイント注意

- 1小節目の「こぶし」は弱音で「た」を強く、9・10小節目の「こぶし」は力強い声から「の」・「か」を弱く表現します。

(歌詞と解説は 38 ページ)

かたみとての御詠歌

はた 秦 氏 君 御作

かたみとて はかなき親の とどめてし この別れさへ またいかにせん

このお歌は法然上人の母、秦氏君がお詠みになりました。

法然上人は長承^{ちようしょう}2年(1133)4月7日、美作^{みまさか}の国(現在の岡山県)久米南条^{くめなんじょうい}稲岡^{おかのしょう}荘にお生まれになりました。父は漆間時国公^{うるまのときくにこう}といます。この日、屋敷^{やしき}の椋^{むく}木に白い幡^{はた}二流れ^{ふたなが}が掛^かかり7日の後、天^{のち}に上^{てん}り去^きりました。この奇瑞^{きずい}は仏天^{ぶつてん}がお誕生^{ようめい}を喜^{せい}ばれたことを示^ししています。幼名^{せうめい}は勢至丸^{せいしまる}と付けられました。

勢至丸9歳の時、明石源内武者定明^{あかしのげんないむしゃさだあきら}の夜討^あちに遭^あい、父時国公は深手^{げだつ}を負います。死^{のぞ}に臨^{のぞ}み「敵^{かた}を恨^{にく}むなかれ、はやく出家^{けだつ}して、私の菩提^{ぼだい}を弔^{なぐさ}い、自らの解脱^{げだつ}を求めよ」と遺言^{いごん}なされます。勢至丸は、同国菩提寺^{かんがく}の観覚^{くわんかく}の弟子となりました。この方は秦氏君の弟、勢至丸の叔父^{しやくふ}にあたります。菩提寺にて修行すること数年、叔父^{しやくふ}観覚^{くわんかく}は勢至丸の学才^{がくさい}を見抜^{みぬ}き、比叡山延暦寺^{ひえいざんえんりやくじ}で修行することを勧め、勢至丸も同意しました。

観覚と勢至丸は母秦氏君の所へ行き、比叡山に登ることの許しを求めます。母秦氏君は道理に折れて承諾しますが、気持ちの上では別れの悲しみを抑えることが出来ません。その思いを詠まれたのがこのお歌です。

大意 夫である漆間時国公と死別した辛さを経験した私です。父親の忘れ形見として残し置かれたこの子勢至丸が、父の遺言に従い仏道を歩んでいます。今勢至丸は比叡山へ行き更に高い仏道修行を目指しています。弟観覚の住持する菩提寺にいるならすぐにも会えますが、ここから遠く、しかも女人禁制の比叡山では会うこともできません。長い別れになるでしょう。我が子の学業成就を願う私ですが、夫と別れ、またさらに子供とも別れる私の辛さも分かってください。

(楽譜は 36 ページ)